

プリオン病

山本幸之

プリオン病とは

最近、イギリスで多発した牛海綿状脳症（狂牛病）は、プリオン病の一種でして、異常プリオンを含んだ肉骨粉を牛に食べさせたために起ったものです。

ハンバーガーやミートパイが大好きだったイギリスの青少年少女に起った新型ヤコブ病や、ニューギニアのフォア族が死人を食べたために発生したクールー病も、プリオン病です。

初老期に発症し、痴呆がどんどん進み、短期間で死亡するクロイツフェルト・ヤコブ病（ヤコブ病）も、この仲間です。ヤコブ病の原因はまだよく分かっていませんが、症状が出る前で健康そうに見えたヤコブ病の人の脳硬膜や角膜を移植された人の中から、ヤコブ病が発生していきすし、同じく、全く健康に見えたヤ

コブ病の患者さんの脳を手術した時に、その手術器具を扱って、手に怪我をした看護婦さんが、その後、ヤコブ病になったり、脳外科医が、ヤコブ病とは知らずに脳の手術をし、そのメスで手を傷つけて、プリオン病にかかった例もあります。

プリオン病のごく一部には、遺伝で起るものもありますが、その大部分は伝染性です。

そして、多くの神経細胞が死んでしまつて、脳は海綿のようにカスカスの状態になりますから、プリオン病は、伝達性海綿状脳症と呼ばれています。

プリオン病は、羊から牛へ、牛から人へと、種の壁を越えて感染する力を持った大変に恐ろしい病気です。

プリオン

正常なプリオンは、脳の中で神経細胞が長く生き続けられるように働いている蛋白質なのですが、異常プリオンが脳の中へ入りますとこれが鋳型となつて、正常プリオンを次

ら次へ異常型に変えてしまいます。だから、正常型が減つて異常型ばかりが増えてきますから、神経細胞がどんどん死んで、脳はカスカスになつてしまうのです。

プリオンそのものは、もともと私達の体の中にあるものですから、異常プリオンのために神経細胞が殺されても、痛いとか、熱を出すと言ふような炎症反応は起りませんし、免疫反応も出ませんので、プリオン病を早く発見するのが大変に難しいのです。

私達が食べた蛋白質は、腸で蛋白質酵素の働きによって分解されてアミノ酸となり、腸壁から吸収されますが、異常プリオンは、蛋白質消化酵素では全く分解されずに、そのまま腸壁からリンパ系を経て、脳へ侵入します。



その上、異常プリオンは、アルコールやフェノールなどの普通の消毒薬では、全く壊されないだけでなく、

高温、冷凍、乾燥、放射線、紫外線など、普通の病原体ならすぐに死んでしまふ方法でも、びくともしません。ただ、焼却だけがこれを消すことができるのです。

お世話の仕方

プリオン病は、空気感染はしませんし、夫婦生活でもうつりません。また、診察、看護、介護などの日常的な接触でも、感染しませんから、患者さんを隔離したり、面会禁止にする必要はありませんし、入浴も他の人との共用浴室で構いません。

但し、血液、体液、脳脊髄液などは危険ですから、褥瘡で滲出液のある場合には、入浴は他の人とは別にしてシャワー浴にします。

吐血、下血、痰などがひどい時には、個室に隔離して、お世話する人は、使い捨ての帽子、眼鏡、マスク、手袋、ガウンなどを着用する必要があります。

お世話する人の手に傷があったら、使い捨ての手袋を使います。

お世話している時に血液、体液、排泄物などが、手についたら流水で十分に洗い流し、口の中に入ったら水でよくうがいをし、目の中に飛び込んだら生理的食塩水で念入りに目を洗う必要があります。

寝具などが血液、痰、褥瘡の滲出液並びに排泄物などで汚染されたら、1-5%次亜塩素酸溶液に2時間漬けてから洗濯します。

汚染された衣類や使用済み紙オムツは、すべて焼却します。

患者さんに使った注射針やメスで怪我をしたら、すぐに傷口から血液を絞り出しながら流水で十分に洗い、更に、1規定の苛性ソーダで注意深く洗います。

濃厚に汚染された場合には、局所を外科的に切除してから、ステロイド剤を2週間服用しなくてはなりません。

プリオン病の進行は早くて、みるみる悪くなってゆくため、ご家族は精神的に動揺されることが多いか

ら、療養上の助言をするだけではなく、精神的にも支えてあげることが大切です。

プリオン病は、特定疾患に指定されており、医療費の自己負担分が公費で負担されますし、短期入所、日常生活用具給付、ホームヘルパー派遣などのサービスも受けられますから、これらが利用できるよう手続きすることも忘れないように。

予防

プリオン病に確実に効く薬は、今の所ひとつもないから、予防が大切です。

プリオン病は、かかりやすい素質を持った人に、異常プリオンが侵入すると発病するのですが、日本人にはかかりやすい素質を持った人が多いため、異常プリオンの侵入を防ぐ注意が必要です。

プリオン病は、発病するまでは全く健康に見え、体の中に異常プリオンを持っているかどうかを確認する

方法が全くないことが予防を難しくしています。

ヒトの硬膜を治療に使うことは、97年に法律によって禁止されたからよいのですが、角膜移植の方は未だ広く行われて居り、ヤコブ病感染の可能性が絶無ではないから心配です。

輸血は、80年以降ヨーロッパに住んでいた人や、イギリスに半年以上滞在した人からは受けられない方が安全です。

牛の脳、脊髄、目、小腸、骨髄、胎盤、リンパ節などは、異常プリオンを多く含んでいる可能性が高いから、挽肉、牛のモツ、骨つき肉などは、なるべく食べないようにしましょう。

但し、オーストラリアは、牧草と穀類が豊富で肉骨粉は与えていませんから、豪州産の牛肉は安全です。



牛は捨てる所がないと言われるほどでして、牛のすべての部分が様々

な形で利用されて居ります。

ポテトチップス、インスタントラーメン、コンソメ、レトルト食品などのすべてに、牛のエキスが使われていますし、ゼリー、ババロア、カールウなどにも入っています。

この他、医薬品、栄養品、化粧品などにも、牛は広く使われてきましたから、現在、止血剤や貧血剤の製薬業者は、原料を豪州産の牛に切り替えていますし、牛の胎盤から作っていた美白化粧品メーカーは、原料を変更しました。

肉骨粉で育てられた豚は、二歳位で食べられることが多く、症状はまだ出てなくても、すでに異常プリオンを持っている可能性がありますから、あまり沢山は食べない方がよいでしょう。

牛乳や乳製品と鶏肉には、異常プリオンは含まれていませんから安心して召し上がりください。

